

1. 住みやすい快適環境都市をつくる（環境・安全）

社会の成熟化、地球環境保全などの観点から、自然と共生し、住みやすく便利な快適環境都市を目指す

No.	指標の内容	基準年度実績値 (16年度)	19年度 実績値	20年度 実績値	目標・予測値 (22年度)	担当課
1	資源ごみのリサイクル回収率 (排出されるごみのリサイクルを推進)	18.3%	18.1%	18.1%	19.3%	環境課
2	自治会の自主防災組織の組織率	50%	61.76%	66.91%	90%	防災安全課
3	さつきバスの年間利用者数	89,171人	85,684人	82,360人	89,171人	総合政策課

2. 魅力ある生活文化都市をつくる（教育・文化）

幼児から高齢者までの、生涯教育と文化・スポーツの振興により、元気で文化性の高い市民協働による魅力ある生活文化都市を目指す

No.	指標の内容	基準年度実績値 (16年度)	19年度 実績値	20年度 実績値	目標・予測値 (22年度)	担当課
4	児童・生徒の学習内容の理解度(小6、中2の学習調査通過率が県の平均を上回る学習項目の割合)	50.7%	66%	42%	65%	学校教育課
5	各種公民館講座の参加者数	97,990人	116,997人	125,949人	105,000人	生涯学習課
6	文化創造センターの利用者数	230,450人	245,700人	268,164人	250,000人 ※毎年度	文化振興課
7	地域の活動に参加した児童・生徒の割合 (「学校生活充実調査」の結果より)	53.5%	65%	61.2%	70%	学校教育課

3. みんなで支える健康福祉都市をつくる（健康・福祉）

市民の健康の保持・増進を図り、少子・高齢化に対応して市民が生きがいを持てるよう、市民一人一人が思いやりの心を養うとともに、高齢者・障がい者が健常者と同じように生活できる環境整備と、それを支える市民活動を支援していくことにより、住み慣れた地域で安心して暮らせるような地域福祉社会の形成を図る

No.	指標の内容	基準年度実績値 (16年度)	19年度 実績値	20年度 実績値	目標・予測値 (22年度)	担当課
8	ボランティアセンターの年間派遣件数	499件	300件	337件	540件	福祉課
9	ファミリーサポート活動件数	558件	545件	520件	700件	こども課
10	65歳以上に占める要支援・要介護者の割合	12.9%	13.77%	13.53%	15.0%	いきいき長寿課

4. 豊かな活力創造都市をつくる（都市基盤・産業）

市民の雇用の確保、地域の経済的自立のため、都市基盤のいっそうの整備充実や産業を育成し、豊かで活力ある都市を目指す

No.	指標の内容	基準年度実績値 (16年度)	19年度 実績値	20年度 実績値	目標・予測値 (22年度)	担当課
11	米の自給率 (農振農用地面積ha×4800kg)/(59kg×人口)×100)	56.3%	52.7%	50.7%	49.6%	農林課
12	市道の改良率	76.9%	77.5%	77.75%	78%	土木課
13	上水道の普及率	99.10%	99.09%	99.10%	99.48%	水道課
14	下水道の整備率	62.2%	75.9%	77.5%	88.5%	下水道課

5. 共に育むふれあい交流都市をつくる（行政運営）

あたたかい人間関係に支えられた地域社会が築けるよう、共に育むふれあい交流都市をつくる

No.	指標の内容	基準年度実績値 (16年度)	19年度 実績値	20年度 実績値	目標・予測値 (22年度)	担当課
15	自治会の加入率	69.2%	65.1%	64.1%	基準年度を維持 ※毎年度	まちづくり推進課
16	市の審議会・委員会への女性参加率	26.9%	30.4%	27.8%	35%	総合政策課
17	市職員1人当たりの市民数	190人※17年度	200人	204人	198人	秘書課
18	市税の収納率(現年分)	97.70%	97.93%	97.90%	98.50%	収納課

※指標は主なものを掲載しています。詳しくは市ホームページや総合政策課、まちづくり推進課をご覧ください。

問合せ先 総合政策課

～市の業務を点検～

行政評価の結果をお知らせします

平成20年度に行った市の業務について、行政評価を実施しました。その結果の一部をお知らせします。



政策評価

政策評価は、総合計画の5つの将来目標について、進捗よく達成状況、政策を実現する上で重要な指標（次ページの表）で構成されています。これらの状況から今後の方針を導き出し、事業の運営を行っていきます。

5つの将来目標（政策）を実現する

政策評価の体系図

行政評価は市の業務を、政策(部)・施策(課)・予算事業(係)の三段階に分けて行いました。それぞれが目的と手段の関係にあり、目的の達成には何をすべきか、そのための具体的な改善をいかにすればよいのかを自ら見つけ出す自己評価を中心に実施していきます(図1参照)。

予算事業評価

予算事業評価では、決算の結果をもとに、コストや指標などを分析しながら、事業の貢献度・必要性・効率性・達成状況を見て今後の方針について検討することにも、行政改革の視点から課題の把握と今後の改善点を見つけていきます。

今後の行政運営の中で行政評価制

施策の総合判定結果(構成比)

A 順調に推移しており、このまま維持する
B ほぼ順調に推移しているが、改善の余地がある
C 一部不調であり、方針の見直しや改革改善が必要である
D 順調に推移しておらず、大幅な方向転換が必要である

ために、86項目の施策について組織別に施策評価をしました。施策のうち68.6%は、現状のままではなく何らかの改革や改善が必要だと判断しています(図2参照)。

指標のいっせえ方

- 行政評価では、政策(市の将来目標)がどの程度実現できたかを定量的に把握する「ものさし」として多くの指標を設定しています。
- 政策で行っていることのすべてを指標だけで表すことはできません。これらの指標は評価そのものでなく、状況を把握するための参考データとしてとらえてください。
- 数値が上がっているから良い、下がっているから悪いという見方は必ずしも当てはまりません。数値を維持していかなければならないものや、数値の下げ幅を抑えていかなければならないものなどもあります。
- 指標の中には、目標値の設定が困難なものがあります。その場合は予測値として設定しています。
- 次ページの指標は、86の施策評価の中から生活に密着するものや分かりやすいものを選び掲載しています。

皆さんのご意見をお聞かせください。